

〔倭訓栞^{中編三}〕うへぶし。著聞集に見ゆ禁中に臥をいふ也。

○按、ブルニ、上宿ノ事ハ、政治部上編宿直篇ニ其條アリ、參看スベシ、

〔書言字考節用集^八〕^{言辭}横陳^{遊仙}副臥^{河海}

〔源氏物語^四〕^{夕顔}おくのかたは、くらうものむつかしと、女は思たれば、はしのすだれをあげてそひふし給へり、

〔源氏物語^二〕^木君はとけてもねられ給はず、いたづらぶしとおぼさるゝに、御めさめて、

〔類聚名物考^{人事十二}〕臥法。

寢臥に内外教の異なる有り儒教にては東首にして北面なり、論語に見えたり、佛教にては北首にして西面なり、是を頭北西面ともいへり、是より僧徒はつねにこれにならふべきよし物に見えたり、仰向に臥を修羅臥といひ、うつ伏に寢を餓鬼臥といひ、左を下にして臥を貪欲人臥といひて、出家は右を下にして、寢ぬべしと有り、是を右脇臥といふ、蘇悉地經、または法花珠林等の書にも出たり、

〔元亨釋書^{傳一}〕^智釋最澄^略○中夏六月十三日^{弘仁}四日、於中道院右脇而寂、年五十六、

〔禁秘御抄^上〕一清涼殿^略○中

夜御殿

四方有妻戸、南大妻戸一間也、帳同清涼殿^枕、東^東疊御座敷也、

〔侍中群要^四〕上宿事

入御夜御殿之後、隨女官告^{長女御}、參宿鬼間、仰殿司、以殿上疊令敷、件所、以履置殿司、庇臥時北枕、若

東枕也、

〔徒然草^上〕夜のおとゝは東御枕なり、おほかた東を枕として、陽氣をうくべき故に、孔子も東首し